

発掘調査報告第17集

駒ヶ根市中沢吉瀬地区グランド造成事業に伴う

埋蔵文化財緊急発掘調査（昭和58年度）

八幡遺跡

1984

駒ヶ根市教育委員会

発掘調査報告第17集

駒ヶ根市中沢吉瀬地区グランド造成事業に伴う
埋蔵文化財緊急発掘調査（昭和58年度）

八 幡 遺 跡

1984

駒ヶ根市教育委員会

序 文

今回ここに刊行の運びとなった報告書は、駒ヶ根市中沢吉瀬地区グランド造成事業に伴い、昭和58年度に実施されました埋蔵文化財緊急発掘調査の報告であります。

現在、駒ヶ根市は3つの地区から構成され、天竜川を境に、西に赤穂地区、東に竜東地区があり、この竜東地区は、西流する新宮川を境に北に東伊那地区、南に中沢地区があります。

東伊那・中沢両地区は、昭和56年度より竜東地区県営は場整備事業に先立ち、数多くの貴重な遺跡が発掘調査され、記録保存されてきている現状であります。

今回発掘調査を実施しました八幡遺跡は、吉瀬地区のほぼ中央にあり、諏訪八幡神社一帯が遺跡地であります。古来より、この一帯からは、縄文時代の土器や石器、さらには、人骨等が出土し（当市には現在は保存されていない）注目をあびていました。調査により得られた資料は、数少なく、又、遺構等も「火葬墓」「焼土集中箇所」のみで、広範な八幡遺跡の一部を解明するまでには至らなかったと考えられます。しかし、出土した資料の中で、中国青磁や天目茶碗、古銭（宋銭と私鑄銭）等は、駒ヶ根市内においても大変貴重なものであります。このように、八幡遺跡は縄文時代の大規模な遺跡として知られていたことに加えて、これらの中世以降の資料が発見されましたことは、今後の吉瀬地区の歴史解明の上に、一役割を果すものと考えます。

3週間にわたって、炎天下の中、発掘調査をご指導下さった友野良一団長を初め、快く発掘作業に参加、御協力していただいた地元の方々、老人会の方々、地主の方々等、多くの皆様の御理解、御厚意によりまして所期の目的を達成することができました。ここに関係者の皆さま方に心から感謝の意を申し上げる次第であります。

昭 和 59 年 3 月

駒ヶ根市教育長 木 下 衛

凡　例

1. 今回の発掘調査は、昭和58年度に実施された駒ヶ根市中沢吉瀬地区グランド造成事業に伴うものである。
2. 発掘調査は、駒ヶ根市長より受託した駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会が実施し、期間は、昭和58年8月18日から9月9日にかけて行なわれたものである。
3. 当報告書は、諸事情により、調査によって明らかとなった遺構及び遺物を多く図示することに重点を置くことになった。
4. 図面及び出土遺物の整理・実測・製図は、宮下節子と小原晃一が担当した。
5. 当報告書の執筆は、小原が担当した。
6. 図面等の縮尺は、その都度指示してある。
7. 当遺跡の遺物及び実測図、写真等は、市立駒ヶ根博物館に保管してある。

目　次

序　文

凡　例

目　次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 発掘調査に至るまでの経過	1
第2節 調査会の組織	1
第3節 発掘作業日誌	3・4
第Ⅱ章 遺跡の環境	4
第1節 位置及び地形、歴史的環境	4
第Ⅲ章 発掘調査	7
第1節 調査概要	7・8
第2節 遺構と遺物	12
※出土遺物一覧表	9～12

図版目次

図版1 八幡遺跡遠景・調査風景	図版3 焼土集中箇所・遺物出土状態
図版2 遺構全景・調査風景	図版4 火葬墓・遺物出土状態

図版5 出土石器	図版7 出土石器
図版6 出土石器	図版8 出土土器・陶器・磁器

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 発掘調査に至るまでの経過

駒ヶ根市中沢吉瀬地区に位置する八幡遺跡（約40000m²）の内、北東隅の一角が、吉瀬ダムの周辺整備事業の一環として、通産省の補助金を得て、グランドを造成する事業に計画された為、市役所主管の各課と協議し、さらに、市教委と吉瀬区と連絡をとり合った。その結果、調査対象面積600m²、調査費用80万円で、駒ヶ根市が事業主体として発掘調査を行うこととなった。

事務手続きは、昭和58年7月10日付で、文化庁へ発掘調査届、8月1日付で、駒ヶ根市長竹村健一と駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会長木下衛との間で、「埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約書」を取りかわした。

調査は、駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会が行うこととし、八幡遺跡発掘調査団を編成し、団長に友野良一氏をお願いし、昭和58年8月18日から調査に入った。

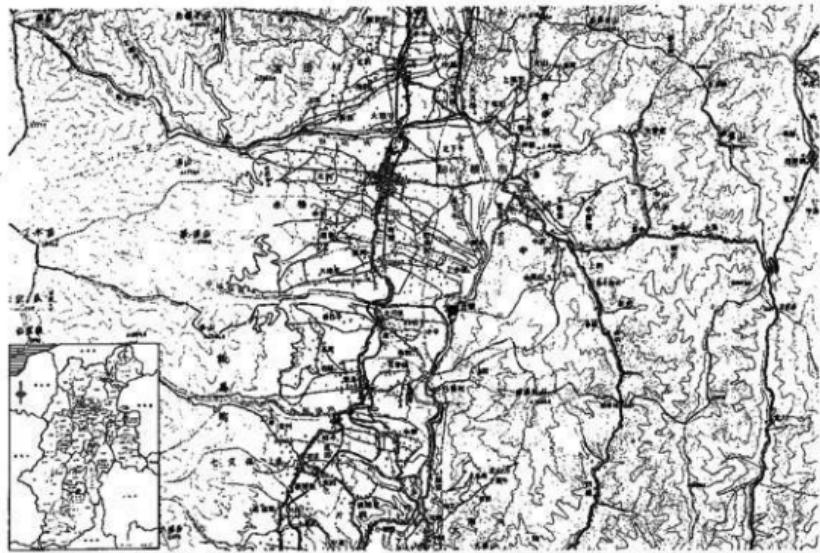
なお、市単独事業として発掘調査を実施する上で、調査費用の予算計上が困難であった等の諸事情に対して、吉瀬区全戸一日調査参加をいただき、調査が順調に進捗した事は多大な成果であった。

第 2 節 調査会の組織（駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会）

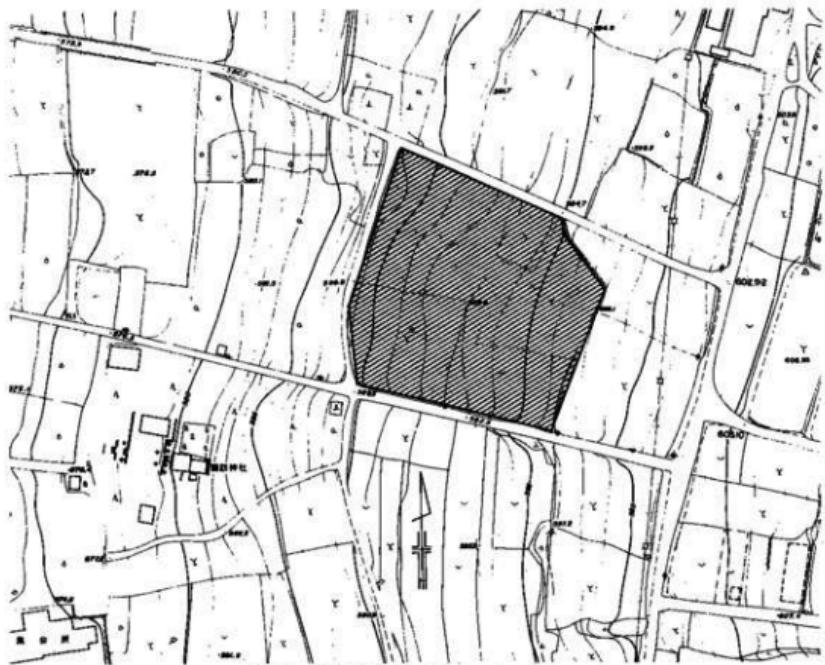
顧問	鈴木義昭（駒ヶ根市教育委員長）	会長	木下衛（駒ヶ根市教育長）
理事	小池金義（市教育次長）	理事	友野良一（駒ヶ根市文化財審議会長）
"	松村義也（駒ヶ根市文化財審議副会長）	"	宮脇昌三（" 委員）
"	林 越（" 委員）	"	竹村 進（" " ")
"	下村幸雄（市立駒ヶ根博物館長）		
監事	中原正純（市文化財保存会長）		
"	北原名田造（駒ヶ根郷土研究会長）		
幹事	北沢吉三（市教委社会教育係長）	幹事	小林晃一（市教委社会教育主査）
"	北原和男（市立駒ヶ根博物館）	"	野々村はるゑ（市立駒ヶ根博物館）
"	齊藤香代（" ")	"	小原晃一（" ")

● 八幡遺跡発掘調査団（事務所 駒ヶ根市上穂南2番15号 市立駒ヶ根博物館内）

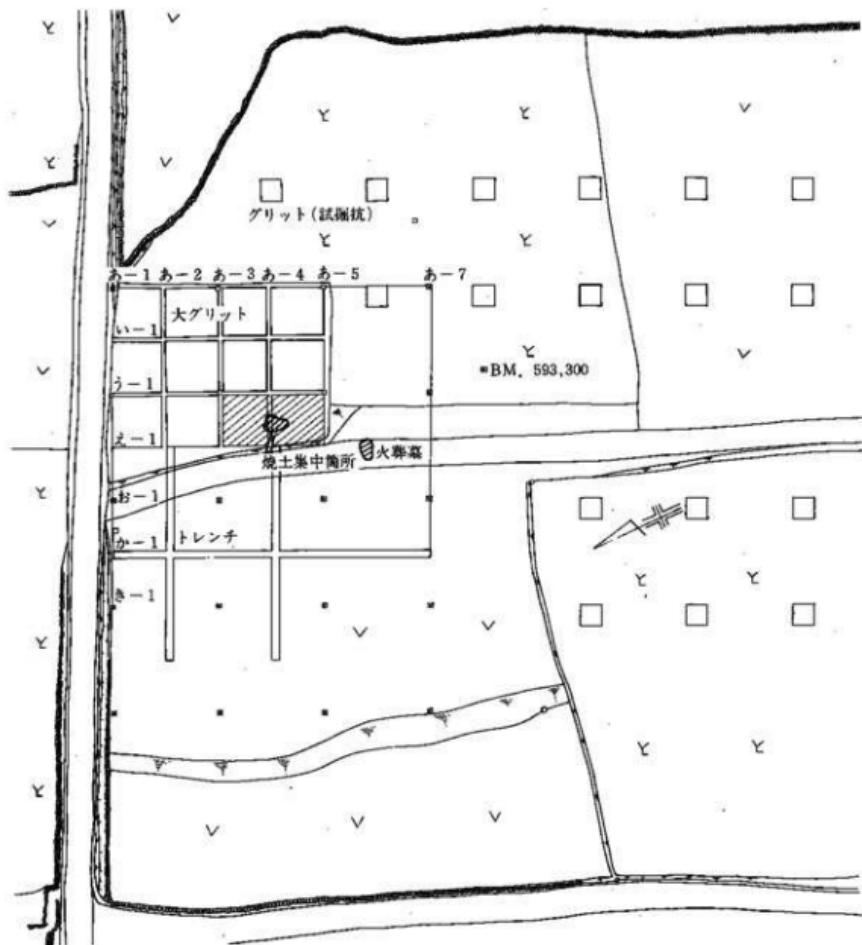
団長	友野良一（日本考古学协会会员）（発掘担当者）	指導者	田中清文
調査員	小原晃一（長野県考古学会員）< " >	"	林 茂樹
"	小町谷 元（上伊那考古学会員）	"	樋口昇一
"	小松原義人（長野県考古学会員）	"	桐原 健（順不同、敬称略）



第1図 八幡遺跡位置図 ($S = 1 / 200,000$)



第2図 同遺跡概要図 ($S = 1 / 2,000$)



第3図 八幡遺跡調査範囲及び遺構分布図 (S = 1 / 600)

第3節 発掘作業日誌

- 8月18日（木） 小原・小町谷両名で、10m×10mの主グイを調査地内へ打つ。
- 8月19日（金） テント設置。あ～おー1～5ベルト設定。あ・いー1～4G掘り下げる。
- 8月20日（土） いー1～2・うー2G掘り下げる。いー4Gは半分掘り下げる。

- 8月21～22日 休み
- 8月23日（火） うー1・2・3 G掘り下げ。2ーえーけT、5ーえーけT、かー1～6 T掘る。
- 8月24日（水） B.Mを593.300に設定。各Gのベルトの断面実測。写真撮影。Tの結きを掘る。
- 8月25日（木） T（トレーナー）3本清掃。写真撮影。断面実測。ベルトはずし。遺物平板測量。
- 8月26日（金） あ・いー4ベルトはずし。T断面実測。うー3・4 G掘り下げ。ブルで西側排土。
- 8月27日（土） うー4 G掘る。出土遺物の平板測量・レベル実測と写真投影。天日茶碗出土。
- 8月28日（日） 休み
- 8月29日（月） うー4 G掘る。古銭出土。黒褐色土層中に、木炭・骨片・焼土が全体的に分布。
- 8月30日（火） うー4 G掘る。うー3 Gとの境に焼土集中個所を検出。石錐出土。
- 8月31日（水） うー3・4 G掘る。砧石、黒曜石剝片が出土。
- 9月1日（木） 雨天の為、現場作業休み。
- 9月2日（金） 雨天の為、現場作業休み。
- 9月3日（土） うー3 G掘る。鉄製品、黒曜石剝片出土。
- 9月4日（日） うー3 G掘る。北側にも黒褐色土が堆積するも堅く砂利が多く、出土遺物は少。
- 9月5日（月） うー4 G掘る。鉄製品、陶器片、打石斧、黒曜石剝片出土。
- 9月6日（火） うー3・4 G掘る。鉄製品、打石斧出土。えー5 G骨片集中区仮清掃。
- 9月7日（水） 会議の為、現場作業休み。
- 9月8日（木） うー3 G出土遺物平板測量、レベル実測、写真投影。青磁片出土。
- 9月9日（金） えー5 G骨片集中区掘り下げ。断面実測、写真投影。本日にて発掘調査終了。

第 II 章 遺跡の環境

第1節 位置及び地形、歴史的環境(第1・2図参照)

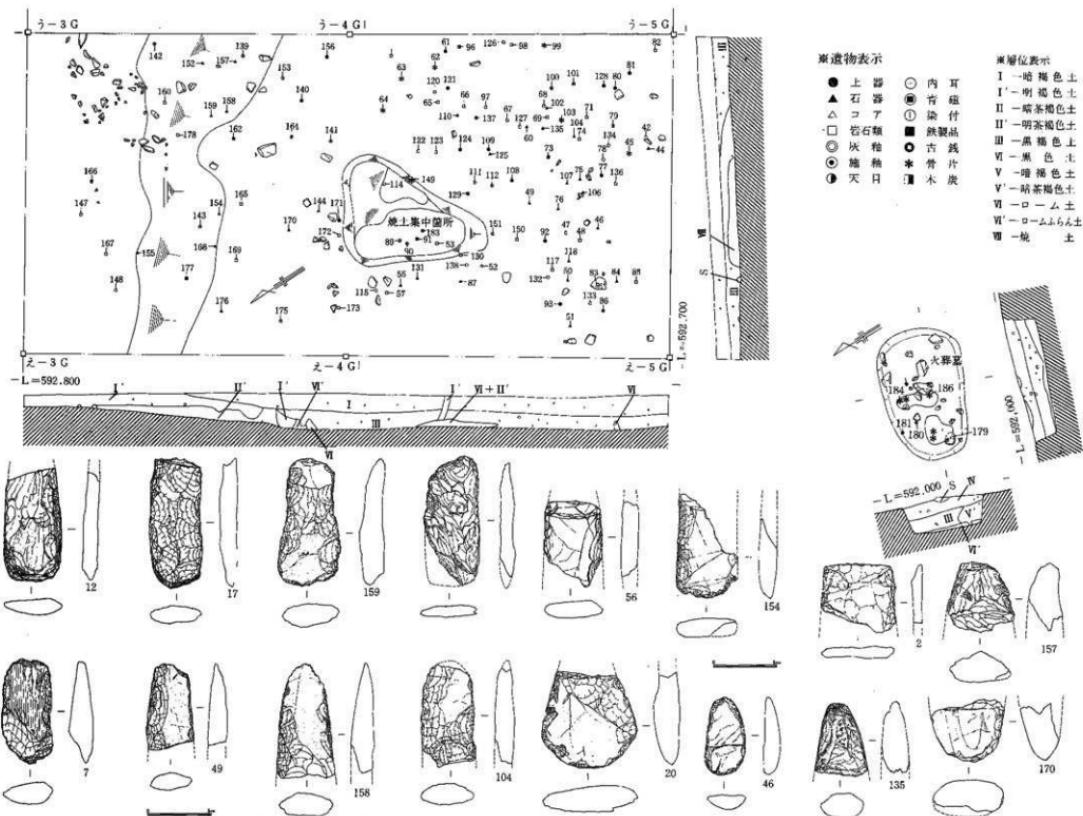
当遺跡は、駒ヶ根市中沢吉瀬 475—1～518—～6番地に所在する。国鉄飯田線伊那福岡駅より南東へ3kmに位置し、標高は、593m前後である。

地形的には、諏訪湖より流れ出る天竜川の左岸段丘上で、東にそびえる陣馬形山から天竜川へ注ぐ寺沢川が造り出した扇状地の中央部にある。

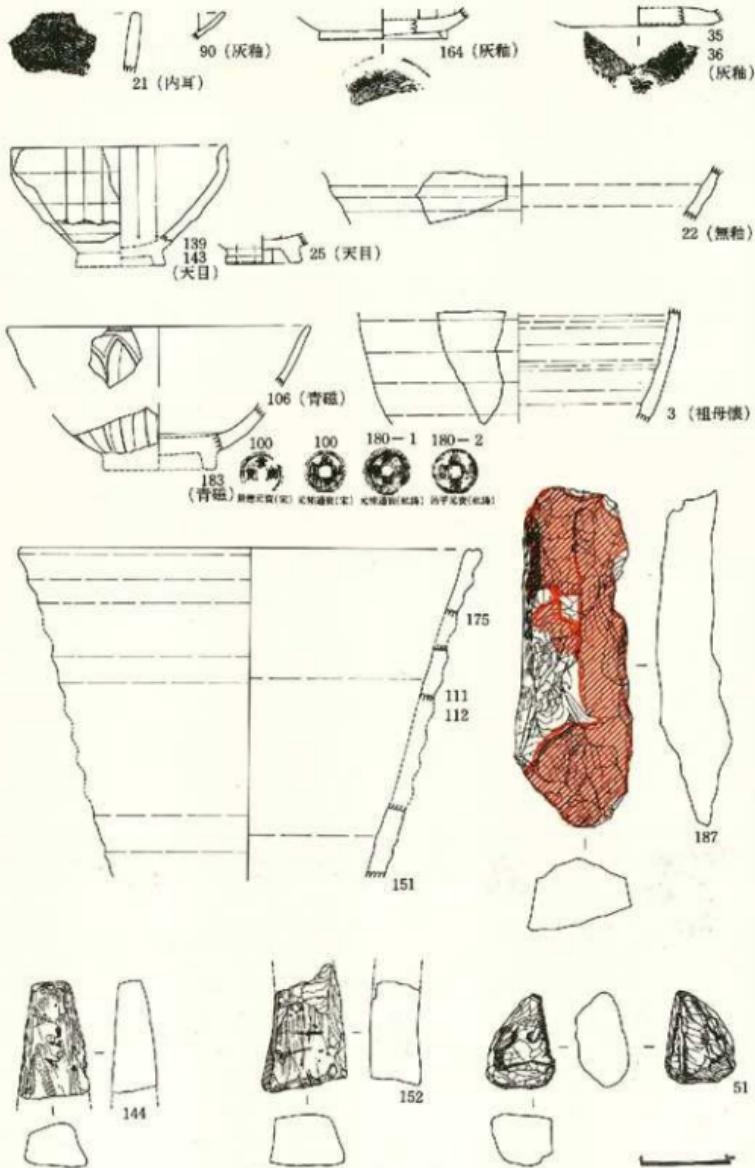
地層的には、礫層の上に、新期ローム層（砂質ローム）が堆積し、漸移層として黒褐色土層、茶褐色土層（地場）、暗褐色土層（表土=耕作土）が堆積している。

歴史的な環境としては、推測として、同じ中沢地区の中割にある高見城跡と関連をもつと考えられる陣馬形山を通じての中世以降の歴史と、諏訪大明神と関連をもつ諏訪八幡神社の存在が特徴的には挙げられる。

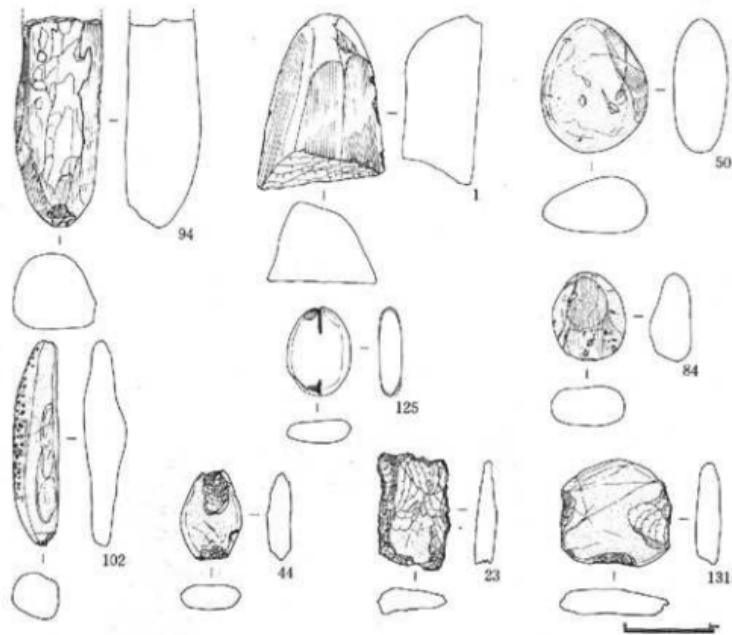
さらに、縄文時代の遺跡の所在は、詳細ではないが、吉瀬地区が南及び西に傾斜し、天竜川と面すという地形的自然環境の良さから、当遺跡周辺は、良好な遺跡所在地と考えられる。



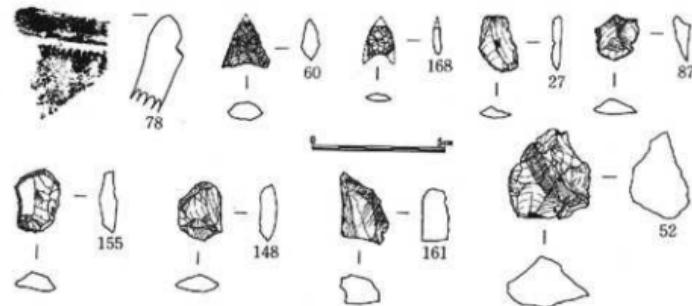
第4図 -3・4G出土遺物分布図及び火葬墓 (S=1/60)。出土石器実測図



第5圖 出土遺物實測圖 ($S = 1/3$)



第6図 出土遺物実測図 ($S = 1 / 3$)



第7図 出土遺物実測図 ($S = 1 / 2$)

出土遺物一覽表

番号	持 物 名	種 別						形 態	時代及 び時期	計 測 値			特 徴
		土石器	上部器	底部器	天端部	内縫	外縫			高さ (長さ)	口径 (幅)	周径 (厚さ)	
1	○							すり石、花崗岩	縄文	(9.4)	8	4.4	(357)
2	○							打製石斧、短鬱形	〃	(5.2)	5.2	0.9	(37)
3		○						調部片	15C半ば			18	
4	○							茶わん、胴部片	17C初				
5		○						深体形、胴部片	縄文中期				
6		○						茶わん、胴部片	11C				
7	○							半磨製石斧、短鬱形	縄文	(8.1)	3.7	1.9	(68)
8		○						茶わん、胴部片	18C				
9		○						茶わん、胴部片	〃				
10		○						茶わん、口縫部片	〃				
11													
12	○							半磨製石斧、短鬱形	縄文	(8.7)	5	1.3	(84)
13	○							すり石	〃				
14	○							打製石斧、破片	〃				
15	○							硬砂岩	〃				
16	○							すり石	〃				
17	○							打製石斧、短鬱形	〃	(10)	4	1.3	(88)
18	○							硬砂岩、剥片	〃				
19	○							硬砂岩、剥片	〃				
20	○							打製石斧、分鈎形	〃		7.3	2	(148)
21		○						口縫部片	16C				
22		○						塊、胴部片	15~16C			21	
23	○							石錐	縄文	6.1	3.9	1.3	52
24								—	—				
25		○						茶わん底部、付高台	17C			4.4	
26		○						茶わん、胴部片	11C				
27	○							サイドスクレイバー	縄文	2.1	1.3	0.3	2
28								—	—				
29								茶わん、胴部片	11C				
30		○						チャート、剥片	縄文				
31	○							茶わん、胴部片	11C				
32	○							—	—				
33								—	—				
34	○							塊、底部片	11C				
35	○							塊、底部片	〃			7.6	
36	○							塊、底部片	〃				No.35と同一個体。糸切り底。
37		○						茶わん、胴部片	〃				
38	○							深鉢形、胴部片	縄文中期				
39	○							〃	〃				
40	○							〃	〃				No.39と同一個体。
41	○							硬砂岩、剥片	縄文				
42	○							チャート、剥片	〃				
43								—	—				
44	○							石錐	縄文	5	3.4	1.3	32
45								骨片	縄文				
46	○							打製石斧、短鬱形	縄文	6	3	1	28
47	○							石英塊	縄文				
48	○							〃	縄文				

番 号	海 図	種 別						形 態	時代及 び時期	計 測 値				特 徴
		土石	土須	灰施	天常	青内染	古鐵			高さ	口径	側径	底径	
		器	漆器	漆器	目清	磁	可付			(長さ)	(幅)	(厚さ)	(重さ)	
49	○							打製石斧, 短筒形	縄文	(6.6)	3.5	1.3	(44)	硬砂岩。
50	○							すり石	"	7.5	5.9	3.2	186	硬砂岩。
51	○							火打石	15~16C	5.3	3.8	2.8	78	長石輝。
52	○							コア	縄文	3.4	3	2	23	黒曜石。堆な剥離。
53	○							石英塊						
54														
55														
56	○							打製石斧, 短筒形	縄文	(6.6)	4.4	1.2	(57)	ホーンフェルス。頭部欠く。
57	○							鍍泥片岩	"					
58														
59														
60	○							石金族。黒曜石	縄文	1.8	1.8	0.7	1	先端幅欠く。
61	○							深鉢形。胴部片	"					
62								骨片						
63								骨片						
64								骨片						
65	○							硬砂岩。剥片	縄文					
66	○							硬砂岩。剥片	"					
67	○							石英塊						
68	○							黒曜石。剥片	縄文					
69	○							黒曜石。剥片	"					
70														
71	○							鍍泥片岩, 破片	縄文					
72														
73	○							深鉢形。胴部片	縄文中期					
74								黒曜石。剥片	縄文					
75	○							打製石斧, 短筒形	縄文					ホーンフェルス。断端のみ。
76	○							剥片石器	"					硬砂岩。1/2残。
77	○							深鉢形。胴部片	縄文中期					
78	○							深鉢形。口縁部片	"					色調一褐褐色。防土一長石石英多し。連続弧形文。
79								木炭						
80	○							深鉢形。胴部片	縄文中期					
81	○							深鉢形。胴部片	"					
82	○							硬砂岩。剥片	縄文					
83	○							石英塊						
84	○							すり石	縄文	4.9	4.1	2.2	68	硬砂岩。表裏を磨っている。
85	○							石英塊						
86	○							深鉢形。胴部	縄文中期					
87	○							スクレイバー	縄文	1.7	1.7	0.5	1	側面全体的に剥離す。
88														
89		○						鍍胴部片						二次焼成。あるいは、風化著しい。
90		○						黒。口縁部	11C					色調一淡灰緑色。防土一灰白色。焼成一良好。
91								刀子?						
92	○							深鉢形。胴部片	縄文中期					
93	○							"	"					
94	○							敲打器	縄文	(11.8)	4.8	4.2	(405)	粘板岩。火をうける。部分的に燃っている。
95	○							硬砂岩。剥片	"					
96								木炭						
97	○							石英塊						
98	○							硬砂岩。剥片	縄文					
99								骨片						

番 号	特 徴 区 域	種 別		形 態	時代及 び時期	計 測 値				特 徴
		土 石 器 器	石 頭 器 器			高さ (長さ)	口径 (幅)	胴径 (厚さ)	底径 (重さ)	
100				○	崇徳元寶					宗義宗。景德年間 (967~1022)
101				○	元祐通寶					宗哲宗。元祐年間 (1085~1100)
102	○			敲打器	繩文	11.5	2.6	2.5	86	硬砂岩。側面と刃部を敲打。 火を受けている。
103				骨片						
104	○			打製石斧、短用形	繩文	(8)	4	1.2	(72)	刃部欠く。硬砂岩。
105										
106	○			敲打器	繩文					粘板岩。
107	○			敲打器	繩文					硬砂岩。
108		○		塊。口緑部片	14C(中国)	(16.8)				蓮華文。褐色一淡緑色。粘土。 一灰鉛色。焼成一良好。
109	○			深鉢形、胴部片	繩文中期					
110	○			打製石斧。短用形	繩文	10	4.4	0.9	(61)	鍍泥片岩。
111		○		塊、胴部片						Nn109と同一個体。
112		○		#						Nn111と同一個体。
113										
114	○			黒曜石、剥片	繩文					
115	○			#						
116										
117	○			硬砂岩、剝片	繩文					
118	○			敲打器	#					硬岩。
119										
120	○			石英塊						
121	○			深鉢形、胴部片	繩文中期					
122	○			石英塊						
123				#						
124	○			深鉢形、胴部片	繩文中期					
125	○			石錐	繩文	4.5	3.1	1.3	(33)	粘板岩。
126	○			硬砂岩、剝片	#					
127	○			黒曜石、剝片	#					
128	○			深鉢形、胴部片	繩文中期					
129			○	塊状						
130	○			平丸石	繩文					硬砂岩。
131	○			石錐	#	5.8	6.2	1.3	82	硬砂岩。
132	○			石英塊						
133	○			硬砂岩、剝片	繩文					
134	○			平丸石	#					硬砂岩。
135	○			磨製石斧	#	(5.5)	4.1	1.9	(60)	痕跡のみ。鍍泥片岩。
136	○			硬砂岩、剝片	#					
137	○			深鉢形、胴部片	繩文中期					
138	○			硬砂岩、剝片	繩文					
139		○		犬目茶碗	15C前半	(6.7)	12	(12.2)		1/8胴体。褐色一こげ茶色。 粘土一灰白色。焼成一良好。
140			○	棹狀						
141		○		茶碗、胴部片	11C					
142		○		#	#					
143		○		茶碗、L型部	15C前半					Nn139と同じ。
144	○			と石	15~16C	(6.5)	4	2.4	(80)	安山岩。黒石からの製作 痕あり。
145										
146										
147	○			鍍泥片岩、剝片	繩文					
148	○			周縁石、剝片	#	2.2	1.5	0.6	2	

番 号	排 区	種 別								形 態	時代及 び時期	計 測 値				特 徴
		土石 器	土 器	石 器	灰 器	施 用	天 然	常 青	内 部	古 物		高さ (長さ)	口径 (幅)	側径 (厚さ)	底径 (重さ)	
149										骨片						
150	○									敲打器	縦文					硬砂岩。
151			○							甌, 腕部						No.89と同じ個体。
152	○									と石	15~16C	(6)	4.7	2.8	(130)	安山岩。原石からの製作痕あり。
153			○							茶碗, 破片						
154	○									打製石斧, 短削形	縦文	(8)	4.7	1.4	(54)	部欠く。硬砂岩。
155	○									サイドスクリバー	#	2.4	1.6	0.6	2	黒曜石。
156	○									深鉢形, 腕部	縦文中期					
157	○									打製石斧, 瘦削形	縦文	(5.2)	5.2	2.4	(69)	頭部のみ。硬砂岩。
158	○									打製石斧, 短削形	#	(8.5)	4.5	1.8	(83)	刃部欠く。硬砂岩。
159	○									打製石斧, 短削形	#	9.8	4.6	1.8	100	硬砂岩。先。
160	○									丸石	#					硬砂岩。
161	○									コア	#	2.5	1.6	1	5	黒曜石。
162									○棒状							
163																
164		○								茶わん, 盆窓, 付窓合	11C				7.2	緑色~灰緑色。胎土一灰白色。底部へう切り。
165	○									硬砂岩, 剥片	縦文					
166									○刀子?							
167	○									甌						
168	○									石金旗	縦文	(1)	1	0.3	0.5	赤色土岩。
169	○									黒曜石, 剥片	#					
170	○									磨製石斧	#	(4.7)	5.5	(2.2)	(94)	刃部のみ。緑泥片岩。
170	○									深鉢形, 腕部	縦文中期					
172	○									砂岩, 剥片	縦文					
173	○									黒曜石, 剥片	#					使用痕あり。
174																
175		○								甌, 口鉢部						
176	○								○刀子?							玄武岩。
177										石英, 片岩						
178	○									石英塊						
179	○															
180								○	元祐通寶, 外	鎌倉~治承						治平元寶の二点。共に私銭で九州造。

第 III 章 発掘調査

第 1 節 調査概要 (第 3 図参照)

調査方法は、先づ対象地区内に20ヶ所のグリットを試堀し、さらに北東道路寄りの一角を基点として、南北軸に1・2・3~、東西軸にあ・い・う~という5m×5mの大グリットを設定。統いて、第3図のように、2-2~き、4-あ~き、1-6-かという3本のトレンチを入れて調査した。う-3・4 G周辺に最終的に調査が集中したのは、調査地内で、良好な遺物包含層をもつことと、特に周辺のグリットの堆積状態が浅く、疊層が露出するという経過からであった。

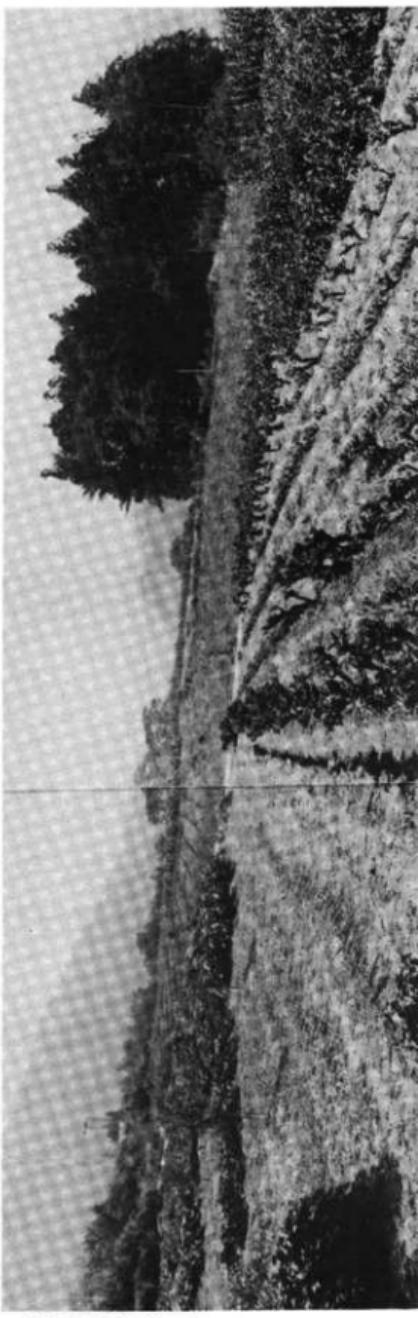
第2節 遺構と遺物（第4～7図参照）

当遺跡からは、焼土集中個所1ヶ所と火葬墓（骨片集中区改め）1ヶ所の遺構が検出された。焼土集中個所は、うー3・4Gにまたがり、長軸2.2m、短軸1.75mの三角形状に遺存し、厚さは15～20cmであった。焼土内及び周辺からは、中国青磁、灰釉、施釉陶器、鉄製品が出土した。さらに、うー3・4G内では、北から南に向かって基盤は傾斜し、包含層からは、縄文中期深鉢形土器片、打製石斧、石鐵、石錘、中世以降の天目、施釉陶器、内耳土器、染付、鉄製品が出土し、特にうー4G南東に骨片、古錢が集中していたことは注目できる。

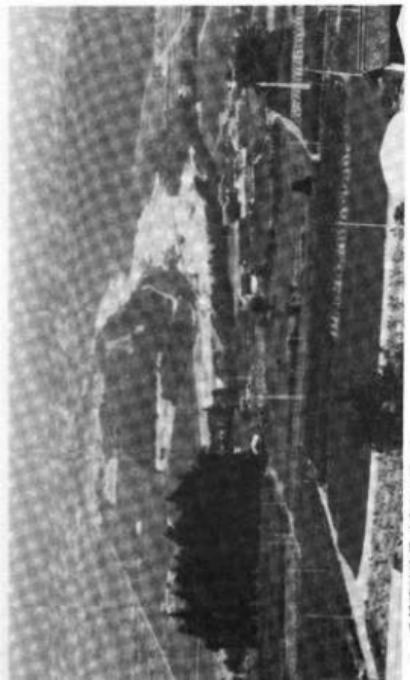
火葬墓は、敷石を設けず、堀り込んで（黒色土を）構築されたと考えられる。出土遺物は、縄文土器、灰釉、古錢、骨片であるが、古錢（九州造私鑄錢）より室町期以降と考えられる。規模は、長軸2.05m、短軸1.3m、深さ45cmで、不整の隅丸長方形をしている。

全体的な遺物については「出土遺物一覧表」を参照されたい。

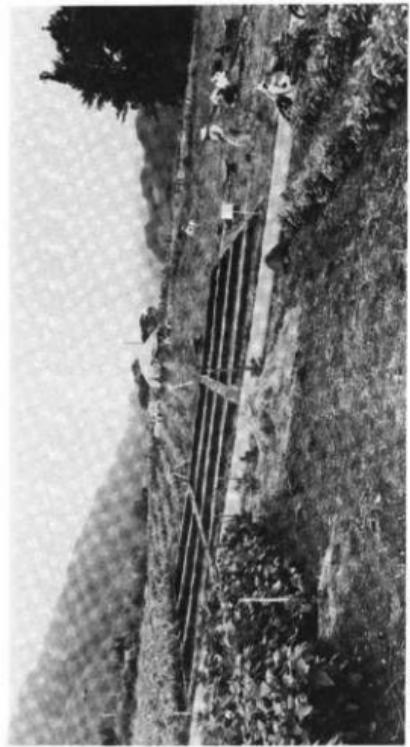
以上のことから、八幡遺跡（縄文期）の中にあって当調査区域は、焼土集中個所と火葬墓の両遺構より室町期以降の性格をもつ。が、打製石斧の多出土は注目したい。（小原晃一）



2. 藤森南谷（北より撮る）



1. 八幡山南谷（東より撮る）

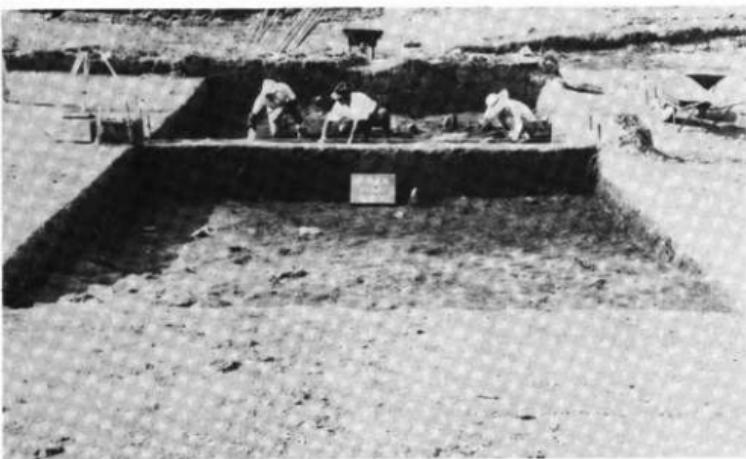


3. 谷合風景（北より）

1. 調査遺構全景（雨より）



2. う13・4G調査風景



3. う13G掘り下げ完了



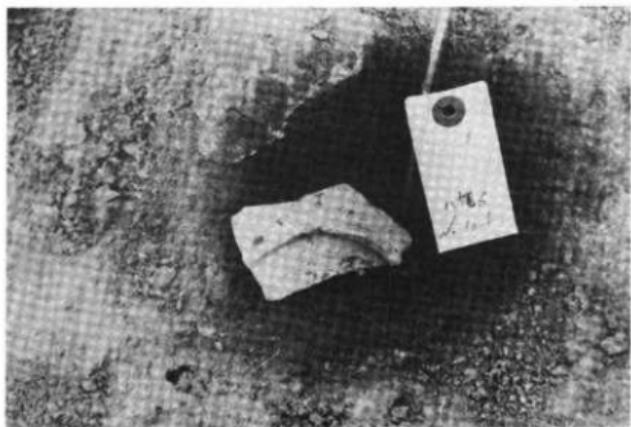
1.
燒土集中窯附近燒



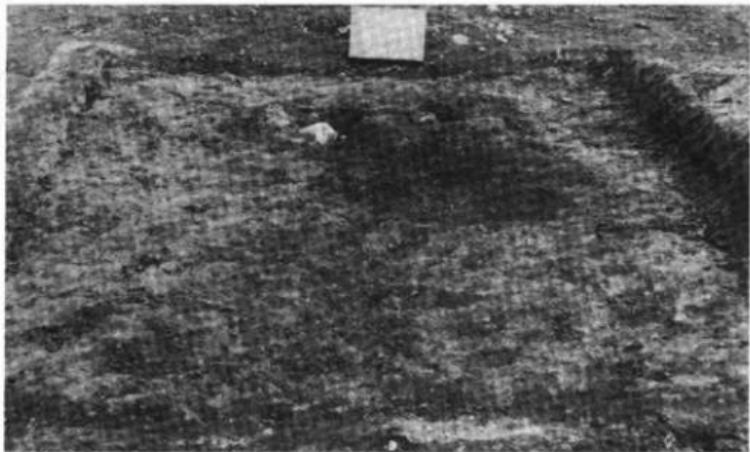
2.
No. 183 青磁出土狀態



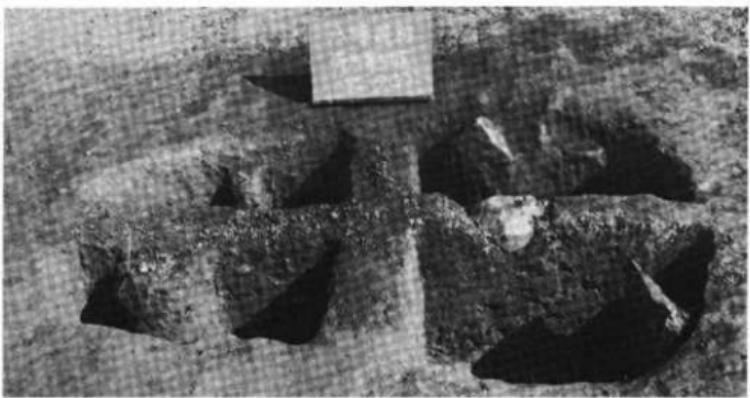
3.
No. 166 灰釉出土狀態



1. 火葬墓調査前



2. 同上覆り下げる状態



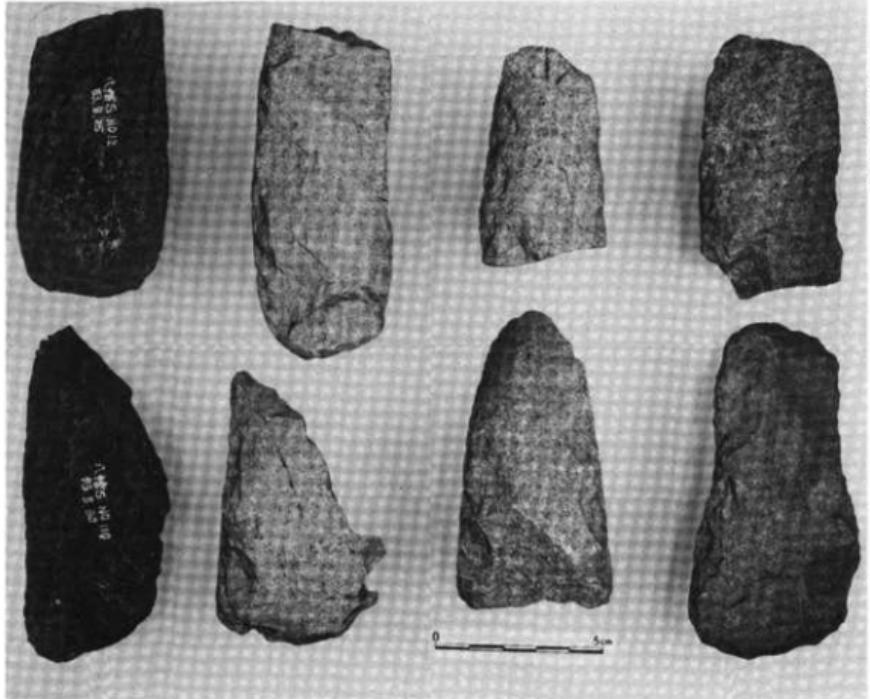
3. 古銭出土状態



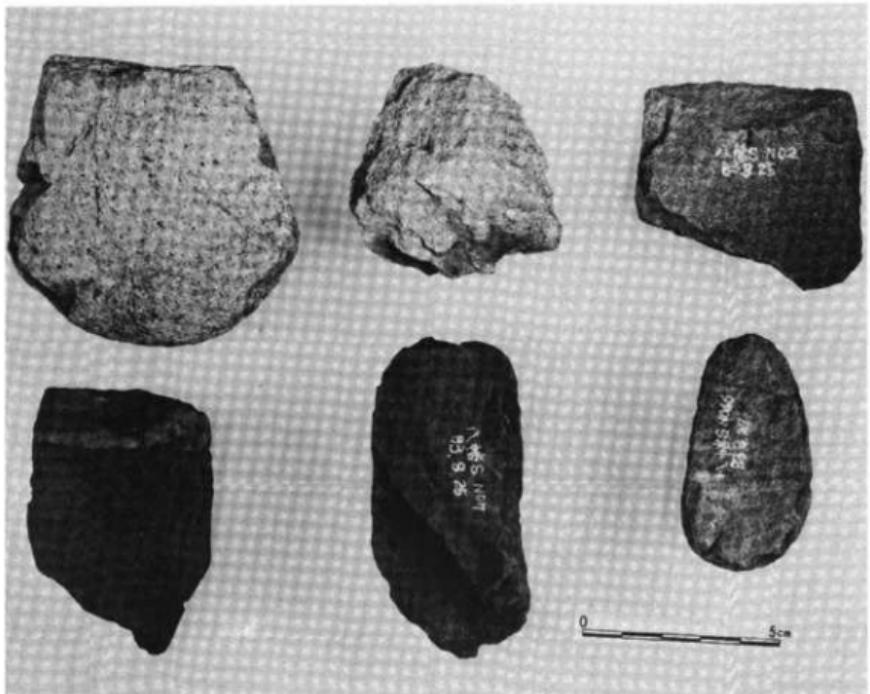
4. 掘り下げ完了

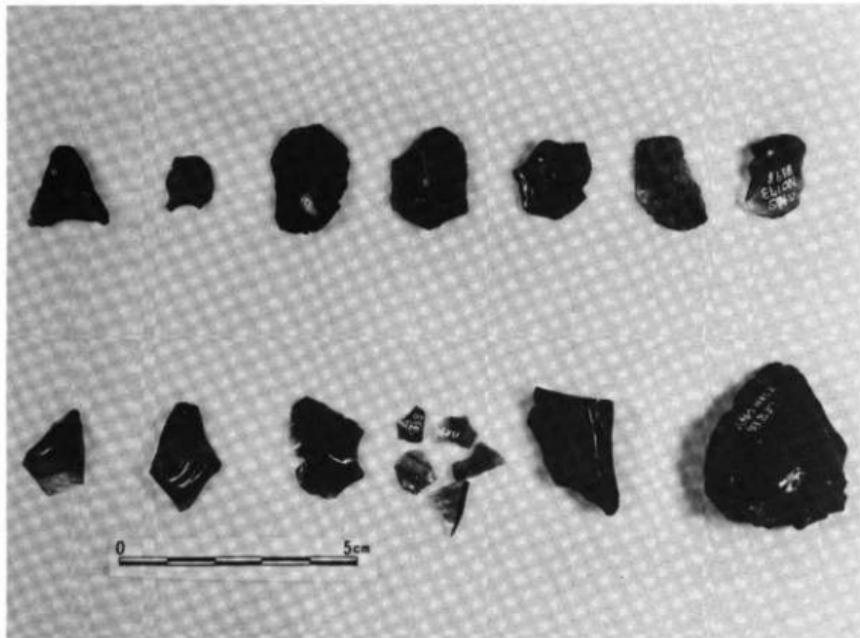


1. 出土石器（打製石斧）

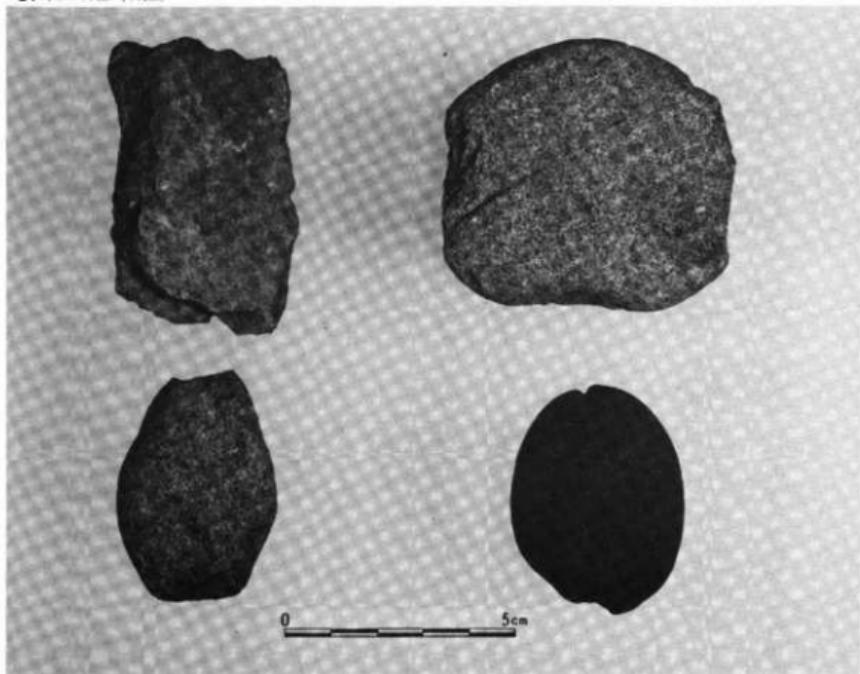


2. 出土石器（打製石斧）

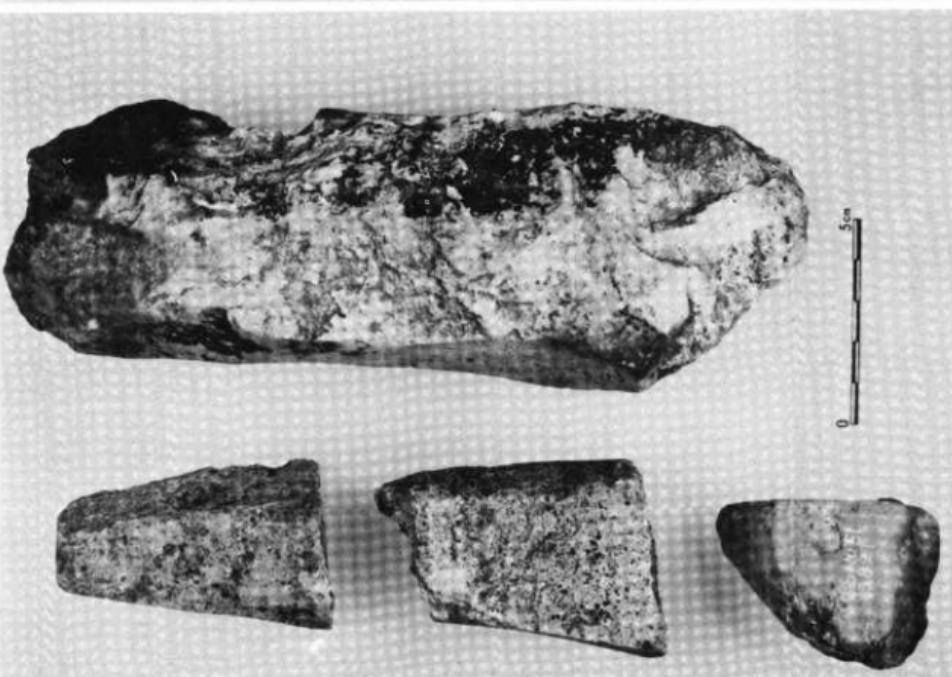
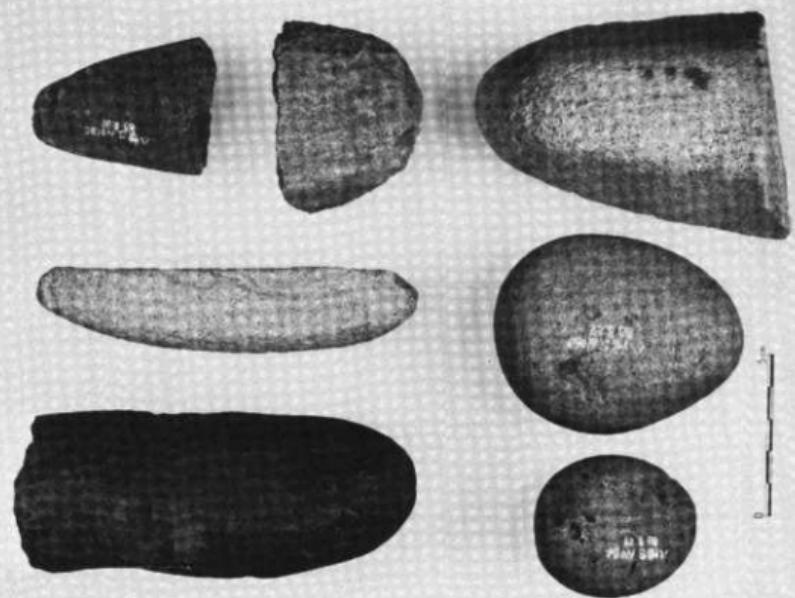


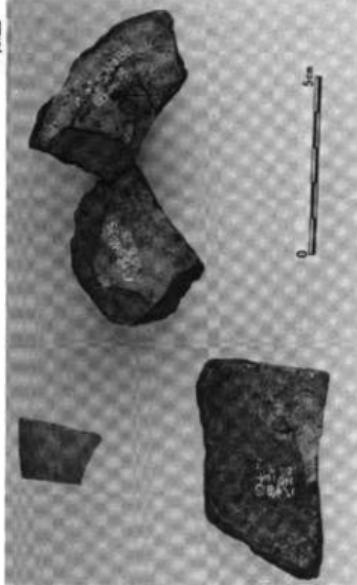


1. 出土石器（石鉋・スクレイバー・コア・剝片）

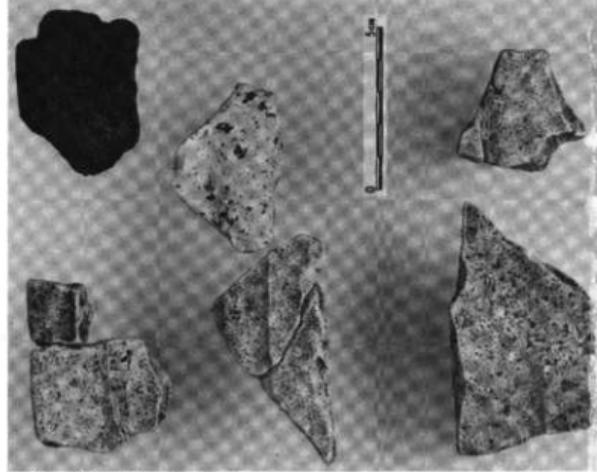


2. 出土石器（石鉋）

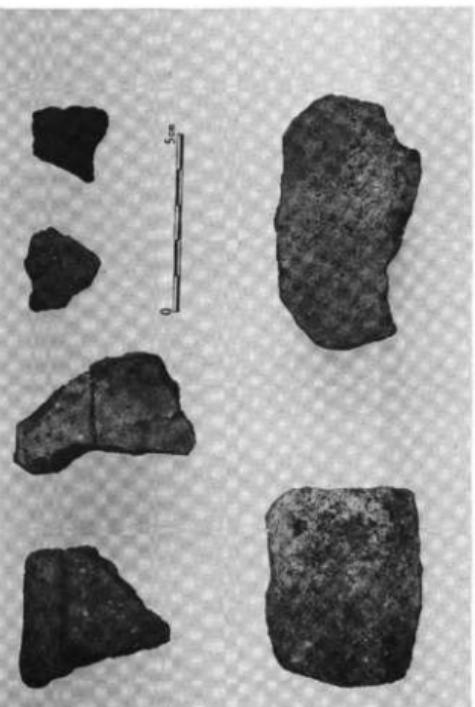




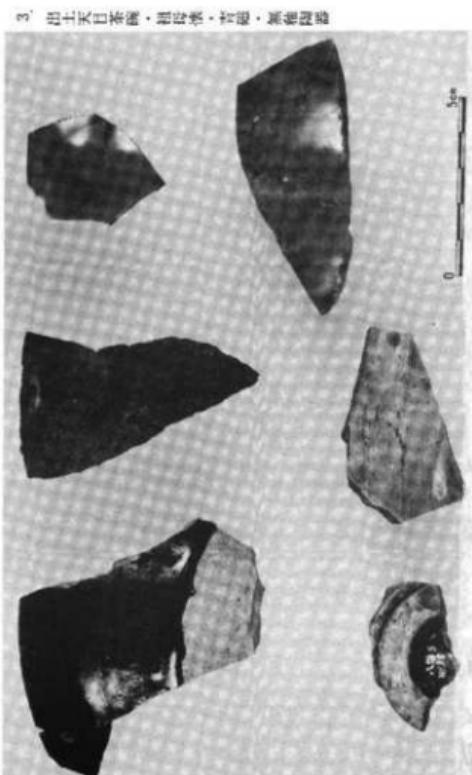
2. 出土灰陶罐器



4. 出土内耳土器·陶器



1. 出土土器(漢文中期)



3. 出土天日茶碗·粗长颈·青瓷·其他器

八幡遺跡

緊急発掘調査報告

昭和59年3月20日 印刷

昭和59年3月25日 発行

編集 駒ヶ根市上穂南2番15号市立駒ヶ根博物館内
駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会

(TEL) 02658-3-2719

発行 駒ヶ根市赤須町20番1号
駒ヶ根市教育委員会

印刷 長野市中越293番地
ほおづき書籍株式会社